

『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ

第10回

関東ブロック

農業プロレタリアート

農業プロレタリアートの発生は

司会…一月号は「農業プロレタリアート」です。「農業プロレタリアート」は如何にして生まれたか、レポートの矢島さんから説明してもらいます。

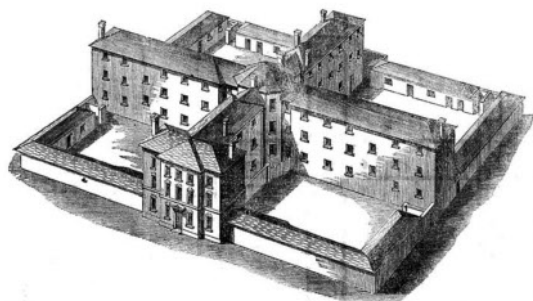
矢島…農業プロレタリアートの発生は二つの発生原因があります。一つは、産業革命によって、家内工業から大工業制へと変わっていきます。工業制の発達によって家内工業で手織りしていた小さなヨーマンというのは没落していきます。どう没落していくのかというと、工業制の生産手段に対抗するた

めには自分も機械を持たなければならなくなります。しかし、金が無いから自分の土地を売ったんです。でも、対抗しきれなく結果的に一部の人は工業プロレタリアートになり、もう一方の人は農業プロレタリアートになるのです。そうすると土地が余り、その土地を大借地農が買う。今まで既存の農業をやっている人達も、どんどん大借地農が大きくなり、生産量も価格も競争に負けて、工業プロレタリアートになる人と、農業の作男さくなんと、農業プロレタリアートになる人に分かれることになります。

もう一つの原因は、今までは、封建的な家父長的制度というのがありました。自分の土地の作男をその家族も含め生涯代々に渡って養ってきたが、封建的家父長制度を解体して作男を農場から追い出し、彼らを農繁期の種まきで忙しい時だけ働く日雇い労働者に変えて、大借地農や地主に雇われざるを得なくなったのです。当時ほどの農場でも必要以上の労働者がいた。これが農業プロレタリアートです。

勝田…農業プロレタリアートの発生についてというのは、工業プロレタリアートが発生すると同時に出てきたという形で

◆みんなの学習講座



300人の貧民を収容する救貧院のためのサンブソンケン
プソンの十字形のデザイン（ウィキメディアコモンズ）

でしょうか。

矢島…工業労働者も農業労働者も同時にではなくて、産業革命によって、家内工業から大工業制へと発展していくことで農業の生産手段である土地が奪われて農業プロレタリアートが発生したということです。

司会…農業プロレタリアートの発生に

ついて理解したと思います。その後はどのようなになったのでしょうか。

貧困で救貧院に送られる

勝田…工業労働者は一年中雇っていたけど、農業プロレタリアートは一年中雇う必要がない。

鈴木…種まきの時期とか収穫期とか、雇い主が期間を決めます。

岡本…そうすると町に出たほうが稼げるとなつて、工業の方に行くのかと思うけど、残った人はいたわけですね。それは、どういう人ですか。

矢島…工業の方が稼げるとなつたら工業の方に行くでしょ。そうすると工業の方はもう定員いっぱいになってしまします。なぜなら、工業は、どんどん機械化によって大工業になり、大工業ほど人を少なくするわけです。そうすると、農業の方で人が余つても、工業の方でも、人を吸収できない。農業労働者はどうするか、行くところがないことになります。このように貧困が益々明らかになると、乞食や盗みも出てきて、そこで救貧院送りとなっていくのです。

宮澤…救貧院とは何ですか。

矢島…救貧院とは高齢で働けず、家賃を支払えなくなった貧困者を収容して救済し、自活に導くことを目的として設けられた施設です。イギリスでは、10世紀から救貧院が存在し、貧しく、高齢で困窮した人々に住居を提供していました。ところが、1601年エリザベス救貧法が制定され、労働力を提供することで貧困者の生活を補償することを目的に「労役所」として救貧院が設置されました。1834年には新救貧法が制定され、さらに労働者が自立して生活することが出来るようになるまで必要な援助を提供するとなります。

しかし、実際には救貧院に入所する

ことは、自由を奪われ労働力として使われ、過酷な労働をしいられました。女性や子どもも使われ、児童虐待や性関係などの乱れも発生していました。「働くことを拒絶した者は怠惰でふしだらなろくでなしとして、嫌な救貧院送りのほかには、一切の救済を救貧管理委員会から拒否される」また、ある貧困農業プロレタリアートの墮落状態を「彼のみじめな一生は短い。リユーマチと喘息が彼を救貧院に運び、そこで彼は楽しい思い出などは何一つなく最後の息を引き取る」と書いてあります。

剰人口です。1815年フランスとの15年戦争がおわり、復員兵がどつとイギリスに戻り過剰人口となります。それまでの戦争好況が終わり、安い輸入品が入り借地農は穀物を安く売らねばならなくなり、安い賃金しか払えませんでした。農業困窮が慢性化したのです。旧救貧法ではうまくいけなくなり、1834年新救貧法が発令されました。成果は以前300万人から400万人の半被救恤民がいたのに対して、100万人の完全被救恤民が登場し、半被救恤民も援助されないうままでいました。農業地帯の困窮は年々増大し、人々は極貧の中で生活し、家族全員が週に6〜8シリングで生活をしていかなければならなくなりました。

岡本…矢島さんの説明の中で、被救恤民という意味が分かりません。

貧困状態は深刻な状況
矢島…イングランドの貧困は農村の過

矢島…被救恤民と書いて、「ひ、きゅうじゅつみん」と読みます。「救恤とは金品などを恵んで貧しい人や、被災

者などを救う事」です。「救恤民とは救う人」であり、「被救恤民とは救われる人。救われなければならない人」です。

アイルランドの貧困の原因は人口の大部分は借地農からなり、借地を求める日雇い労働者が多数残って、その土地もわずかしかなりません。農業地帯は、人口850万人の内58万5000人の家長が赤貧の生活をし、州長官アリソンがもちいた別の典拠によれば、「アイルランドでは230万人もの人間が公的または私的の援助なしには生活できない。つまり人口の27%が被救恤民なのである」と発表しています。勝田…家父長制は廃止していったという事なのですけど、「廃止が貧困を加速させた」と書いてありますがどういうことですか。

矢島…封建制での社会構造から資本主義への社会構造に変わったという事です。つまり、利益優先なのです。家

◆みんなの学習講座



教区から出ていくよう貴族から命じられる農業労働者

父長的關係を解体したことは「借地農の利益であつた」と書かれています。

勝田…家父長制がない方が、利益が推し進められたという事なんですか。

矢島…それは、「大農経営制度が絶えず広がっていくと、女と子供の労働を農地へ様々導入することが一般化する。家父長的關係をなし崩しに無くしていく

つた」と書かれています。

荒畑…日本でも農地解放によつて小作人が、小さな土地を手に入れても手放してしまいましたよね。小さな土地では、食べていくことが出来なかつたからですよ。かたや不在地主と言われる人がいるのです。都会に住んでいて地方に土地を沢山持つている人が増えているんです。家父長制も解体して、日雇い労働者に変わり、日本だつて、女性の労働者が使われたのは、男性に比べて安いからだと思ひます。

司会…農業プロレタリアートの貧困状態について分かりました。その後、どうなつたのでしょうか。闘いがあつたのでしょうか。

農業プロレタリアートの反乱

矢島…その闘いの一つに、レベッカ運動がありました。

レベッカ運動の背景と原因は、貧困

が進んでいる農村のイングランドの大借地農の境遇と隣の州であるウェイルズの小借地農の境遇の違いがある。イングランドの大借地農は大工業に例えればプロレタリアとの対立を日常的に行う大資本家みたいなものです。一方ウェイルズの小借地農は没落していく小ブルジョアジミみたいなものです。

しかも同じ市場で競争しているイングランドの大借地農と同じくらい安く自分たちの生産物を売つても、等しい利益を上げることが出来ません。隣のイングランド人との競争、地代の上昇は彼らを没落させています。ウェイルズでは新救貧法による救貧院が、小借地農の間でも嫌われていた救貧院に世話になる危険性も晒されていました。彼らは自分たちのひどい状態の真の原因がどこにあるかわかつていない、通行税が高いのが原因と思ひ、1843年2月不満が爆発して暴動となりました。男は女の服装をし、顔を黒く塗り多数

の武装集団をなして遮断機の代わりを

していた門をこわし、発砲し、通行税

取立人の小屋も破壊し、「レベッカ」

という偽名で脅迫状を書きました。こ

れが、レベッカ運動です。一度はカマ

ーゼンの救貧院にも襲い掛かったと書

いてあります。そして農民は軍隊が強

化された時、放火や殺人も企て始めた

ことに、運動方針への不満や、恐怖か

ら運動を離れたものも多く出て、運動

は沈静化しました。

宮澤…救貧院は、その劣悪な労働条件

で働かせていたから、その矛先が救貧

院に向かったのは分かるけど、政府や

他にもあるのですか。

矢島…工業プロレタリアートとか、鉱

山プロレタリアートの場合は、社会状

態に対する反抗の第一段階の犯罪によ

る犯行は乗り越えましたが、農業プロ

レタリアートは今日にいたるまで、第

一段階にとどまっていたのです。政府

に歯向かうことは考えられませんでした。

荒畑…農業日雇い労働者階級の他にも、

いくらか精力的で、肉体的にも、知的

にも、道徳的にも、よりすぐれた資質

にめぐまれた「第二の階級がある」

「有産者にたいする憎悪という点では、

彼らは第一の階級にまったくおとらな

い」と書かれていて、有産者に抵抗し

ていったとあります。どういふことな

のですか。

矢島…イギリスは昔から、領主が広い

土地を所有していて、そこにいたキツ

ネやウサギの狩りを楽しんでいたので

す。封建時代は農民がその獣を獲つ

て食べても咎められなかったのですが、

産業革命後は、そこへ管理人を置き、

勝手に農民が、獣を獲ると、咎められ、

狩猟区の管理人や海岸の税官使と衝突

し血を流したり、投獄されました。

密輸業者や密猟者を「第二の階級」

と言っているのは、権力者への抵抗集

団だからだと思います。

アイルランド人の功罪

司会…アイルランド人の性格をエンゲ

ルスは、「アイルランド人は落ち着き

がない。そのくせ怠惰である。利発で

軽率、激情的で短気、先見の明がない。

本能的に勇敢で、寛大で、あまり深く

考えない。無礼の仕返しや、許すのも

友情を結ぶのも、断つのもはやい。天

才の資質を豊富に与えられているが、

判断力に乏しい」と言っています。こ

れに対して討論しましょう。

勝田…アイルランドはやせた土地で、

より貧しい人たちが、たくさん住んで

いる土地柄、生き残ろうとする性格が

強く備わっていると、思えます。理性

が低いのは、教育とかも圧倒的に受け

られないと思うし、食べ物もやせた土

地だから、土地をイングランド並みに

肥沃にするには1億2千万ポンドスタ

ーリングが必要、そこでは暮らせなく

て、イングランドに出稼ぎに来る中で

◆みんなの学習講座



現在のアイルランドの農地風景

性格が培われたと思っています。

岡本…むしろイングランド本土の資本家は、アイルランド人を利用しています。アイルランド人は住居なんか何でもいいという感じで、部屋の真ん中にあけっぴろげで見えるようなトイレがあります。寝るところも藁を積み上げ布団代わりにして寝ています。パジャ

マも平常の服と同じ、アイルランドでは当たり前だったんです。だからイギリスの資本家はそれを利用して、労働者に「こういうところに住まわせるぞ」「賃金下げるぞ」と、脅しています。実際、住まわせているけどね。

荒畑…それは現代の日本でも外国から技能実習生として来る人たちにも当てはまります。名前は技能実習生と言っているけど、実際は、移民と同じで労働力を売りに来ているだけです。雇用主は、賃金を安く抑え、人としての扱いをしてくれません。資本主義国は儲けるためには国境なんて関係ないのです。

小林…アイルランドの農村人口の10分の9は、年間30週は腹半分になるだけのジャガイモを食って、残りの22週はまったく食べるものが無い。春にジャガイモが発芽して食べられなくなると、女房、子どもは街へ出て行って乞食をしている、と書いてあります。

した。だからどんなこともいとわないのです。

アイルランド人がいることで、イングランド人の労働条件がドンドン引き下げられています。これが農業プロレタリアートの実態です。

渋谷…しかし、評価もしています。イングランドに移住することで、アイルランド人はイングランド民族に将来実を結ぶのであろう酵母を伝え、食文化を豊かにさせたのです。それに、一番差別され、虐げられた人々が声をあげること、それに圧倒的多数の労働者が、共感し団結していくことが、社会を変える原動力になるのではないかと。

司会…ありがとうございます。皆さんの討論で、農業プロレタリアートの貧困の原因と過酷さ、反乱が分かりました。次回はプロレタリアートが階級へと自覚を深めていく様子を学習します。乞うご期待です。